

郷土の偉人・大島有隣
— 石門心学入門 ⑬ —

「雑事聞書」をみると、足立十右衛門が、栗橋関所番士という立場から、幕府の動向に目を配ると共に、栗橋周辺の動静を注視するなど、様々な社会情勢に対するアンテナを高く張っていたことが窺えます。また、幕府の一役人として必須の、高い教養と知識を身に付けていたこともわかります。そうした中で、石門心学との、延いては大島有隣との接点があったのでしょうか。

方や大島有隣の側でも、心学普及活動の中で、関宿（現千葉県野田市）や栗橋宿（現久喜市栗橋）周辺などで心学教諭を精力的に行なっていたことが史料上からも確認できます。足立十右衛門との出会いは必然であったともいえます。

実際これまでみてきたように、石門心学の思想は、為政者側である武士階層にも広く受け入れられていたことがわかります。時恰も関東では、治安の悪化、風俗紊乱の時代でもあったことから、心学的通俗道徳が、広く諸階層から受け入れられやすい社会状況だったともいえます。

為政者側の意向と相俟って、被支配者層である村方側でも、村人、特に若者層の風俗矯

正を目的として、大島有隣による心学道話の聴聞会を開催したりしたようです。つぎの史料は、八甫村（現久喜市八甫）を中心とした村々で有隣の心学聴聞会開催を近隣村々へ通達する書状です。

〔前略〕当小組合千塚村宝性院二而大島有隣先生心学教諭相願候間 各々様方御組下若もの子供二至迄御連立御聴聞可被成候、尤四つ半時相始七つ時迄二御座候間、早朝より相働右刻限二ハ御出席可被成候、若もの方二ハ別而為筋二も相成候儀二御座候間、必御入来可被下候、右得其意度乍略儀以廻文申上候、以上（後略）

心学の効用を説き、若者の積極的参加を呼び掛けているのがわかります。（つづく）

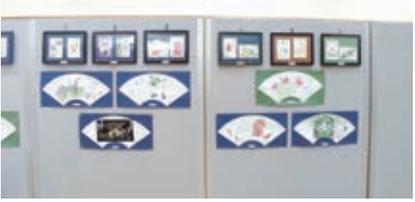
参考文献『埼玉県史料叢書25 栗橋関所史料 六 雑事聞書1日光御参詣御用中書留』、『五霞村の歴史資料2 五霞の古文書』

心学教諭廻文

（社会教育課 町史・文化財担当編）

第40回 杉戸町文化祭

日時 11月17日(金)～19日(日) 9時～17時
(生涯学習センターは最終日16時まで)
場所 西公民館、南公民館、生涯学習センター



問合せ 公民館事務局 ☎ (34) 6840

- 内容
- 発表部門 日舞、フラダンス、体操、コーラス・合唱、民謡、楽器演奏、手品、大正琴、フォークダンス 等
 - 展示部門 絵画、書、俳句・短歌、工芸、彫塑、写真、生花、織物、折り紙、つるし飾り 等

■公民館休室のお知らせ
文化祭開催に伴い西・南公民館は、11月15日(水)～21日(火)午前まで、公民館図書室が休室となります。図書の予約本の貸出と返却のみ事務室の窓口で受付します。



UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町ホームページ



メール配信すずめー



広報スマホ版マチイロ



杉戸町公式LINE